

事業の実績	<p>1. クマガク・ソーシャルワーカー・デーの開催（11月11日／土／13：00～17：00） *参加者：241名（学生223、学外者18名）</p> <p>1) 基調講演：山下順子氏（NPO法人とらたの会代表） テーマ：共生の地域づくりとソーシャルワーカーへの期待</p> <p>2) シンポジウム：先輩が語る福祉実践～ソーシャルワークの魅力～ シンポジスト：①熊本市高齢介護福祉課 河辺勇太氏 ②菊陽町社会福祉協議会 萩野政信氏 ③医療社団法人松本会フェニックス 増田史弥氏 ④合志市社会福祉協議会 吉田絵梨氏 コーディネーター：社会福祉学科 高林秀明教授</p> <p>3) 意見交換会：シンポジスト4名と共に希望者30名と教員によるテーブル別に分かれて意見交換会。</p> <p>2. ブックレットの作成 今後の学習教材として、「ソーシャルワーカー・デー」の内容を基に作成（120部）。</p>
具体的な成果	<p>今回の事業の目的は、社会福祉専門職として現場で活躍している卒業生の活動実態を具体的に聴講することや直接的な交流を通して、ソーシャルワーカーの専門性や魅力等の理解を深める機会をつくり、学生のキャリアビジョンを支援することにある。さらに、ソーシャルワーカーについては市民生活においても適切に認知されているとは言い難い状況にあり、現にソーシャルワークを学んでいる学生に留まらず、これからキャリアデザインを描く中学・高校生及び高校教師や保護者等のソーシャルワーカーに対する認知度を高める一助とすることであった。</p> <p>主たる目的であった「学生のキャリアビジョンを支援する」ことに対する、社会福祉学科学生の主な反応は、下記のとおりであった。</p> <p>①人が人を支援する社会福祉はやはり魅力的だと思えた。今後の学習に向けてとてもよい刺激を受けた。 ②先輩方の具体的な活動を聞いて「人生の主人公は利用者」という言葉がすごく素敵だと思った。 ③今までぼんやりしていた社会福祉士としての仕事像が段々と明確になった。卒業後の就職について考えさせられた。 ④受験を失敗して本学に入学したが、入学して本当によかったと思えた。これからしっかり頑張っていくと思う。 ⑤社会福祉士の幅広い活動内容やその意義などを聞いて自分のモチベーションが上がった。 ⑥活動していく中でぶつかる壁、思わぬ見落としがあって辛いこともたくさんあるが、全てが学びでこれからの活動に繋がっていくのだと、とても貴重な話が聞けた。日々学習という意識をもって取り組んでいきたい。 ⑦福祉に関する考え方をを見つけることが出来た。実際に現場で働く人の言葉には説得力があり、聞き入ってしまう程だった。これを機に社会福祉についてもっと理解を深めたいと思った。</p> <p>学外者の参加は高校生10名や保護者、教師など18名であったが、アンケート調査による反応では、満足、やや満足と回答した人が多く、①社会福祉士のイメージが具体的になった、②大学でどんなことが行われているのかがわかった、などが記されていた。</p> <p>以上のことから、今回の事業は学生にとって、現在学習していることが今後の自分にどう繋がっていくのかについて理解を深め、今後の学習への動機づけになるという成果が得られたと考える。</p>